

今回からしばらくの間、世界の建設需要と比較しながらわが国の建設投資について論じていくことにする。最初に、わが国の建設投資は世界的にみて多いのかどうかを考察してみたい。

10年ぐらい前まではわが国の建設投資は海外と比較して多いという話をよく聞いたが、最近はそのような声を聞かなくなった気がする。実際にはどうなのか。建設投資を論じる際には「建設投資額」などお金の指標を用いることが多いが、ここでは建設した構造物量を指標として、さらにその構造物量の指標としてセメント消費量を用いて論じることにする。要するにこれまでとまったく同じ方法であるが。

そこで早速、世界平均とわが国のそれぞれの一人当たりセメント消費量の推移を示す(図-1)。戦争による中断はあるものの、こういった統計が20世紀初頭から整備されていることにまずは驚くべきだと思うが、もっと

驚くべきことに、わが国の一人当たりセメント消費量は第二次世界大戦以前から世界平均よりも多かったようにみえる。

とはいえ、戦前は一人当たりの消費量が接近していて判然としない。そこでグラフの縦軸を対数目盛りにしてみる(図-2)。すると、第二次世界大戦前の、世界におけるわが国の意外な地位が見えてくる。もちろん、建設ひいてはセメント消費量についてではあるが、1920(大正9)年にはすでに世界平均を超え、統計のある1938(昭和13)年までその差は拡がりこそすれ、縮

小はしていないという事実に驚く。

通常、「日本の経済成長」は1945(昭和20)年以降でしかとらえられないことが多い。しかし、わが国の一人当たりセメント消費量を戦前から通して見ていくと、戦後の急成長の前半(1955年頃まで)は戦争によるダメージからの回復であったと見なすほうが自然である。この点については文献1)を参考にした。

そこで、建設需要におけるわが国の地位の変遷をわかりやすく表示するため、わが国の一人

Joker **2**号 大内雅博の

当たり前とも遠からず

連載



正会員 編集委員 大内雅博 OUCHI Masahiro (高知工科大学助教授)

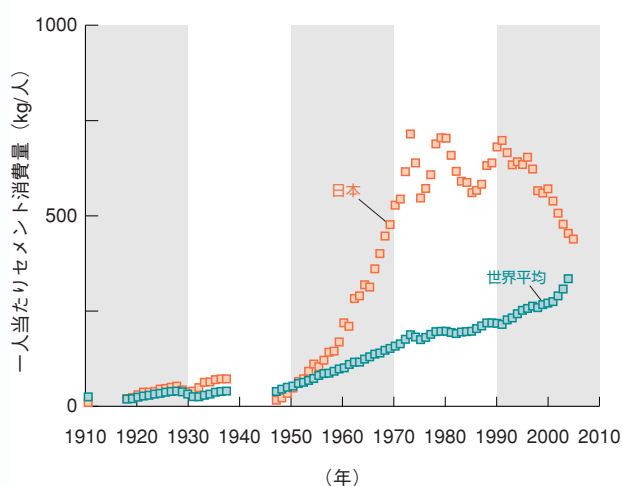


図-1 わが国と世界平均の一人当たりセメント消費量の推移 (1913、1920～1938、1947～2004年：日本のみ2005年まで表示)

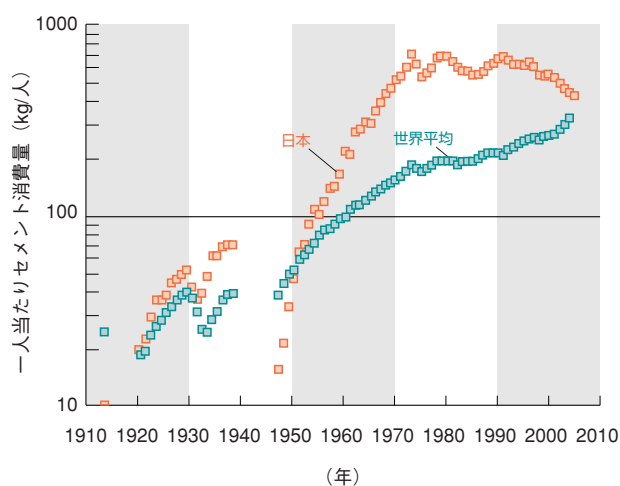


図-2 わが国と世界平均の一人当たりセメント消費量の推移【対数表示】(1913、1920～1938、1947～2004年：日本のみ2005年まで表示)

第 10 回

日本の建設投資は多いのか？ ー世界との比較

当たりセメント消費量と世界平均のその比率の推移を求めた(図-3)。戦前の最盛期、1934(昭和9)年には2倍を超えていたことが一目瞭然である。戦後は1951(昭和26)年に1倍を超えるまでに回復し、1973(昭和48)年には4倍近く、3.8倍にまで達した。この年がピークであった。10年前の1997(平成8)年でも2倍を超えていたのであるから、やはりわが国は「建設投資の多い国」であったということになる。

一方、ピーク以後はバブル期を除いてひたすら降下、という

よりはむしろ「普通の国」に向けてまっしぐらといった感じだろうか。両方の統計の揃っている最新の2004年では日本が454 kg/人、世界平均が335 kg/人であるから比率は1.36倍である。このグラフ(図-3)をそのまま下に伸ばすと2006年に1倍を切っていそうである。遅くとも今年、2007年にはそうなるであろう。世界中のセメント消費の統計データが揃うまでには2年ぐらい必要であるために断定はできないが、その可能性は高いと思う。

ここで見方を変えて、わが国

全体の消費量が世界に占める割合はどうか。その推移を求めてみた(図-4)。ピークの1973(昭和48)年には10.9%。世界の建設投資の1割以上が日本で行われたことになる。凄まじかったの一言に尽きる。それが2004年には2.7%である。2007年は、世界の建設に占めるわが国の地位は2%程度ということになるのだろうか。この値は戦前の1920年代すらを大きく下回っている。

建設投資に関して、今年はわが国が「世界の中の普通の国」になった年として記憶されることになるのだろうか。いやいや、決して質的にはそんなことはないはずであるが、証明するにはどうすればよいのだろうか。

参考文献

1) 板倉聖宣：日本史再発見ー理系の視点から、朝日選書、1993

データ出典

CEMBUREAU: World Cement Market in Figures 1913/1995

(資料提供：(株)セメント新聞社)

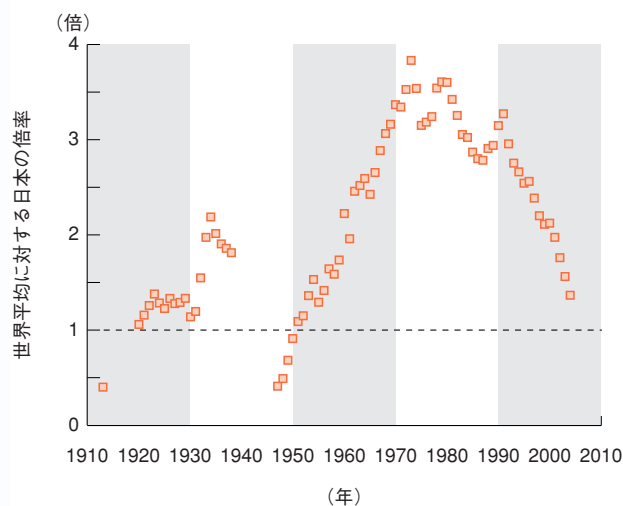


図-3 わが国の一人当たりセメント消費量の世界平均に対する倍率の推移 (1913、1920～1938、1947～2004年)

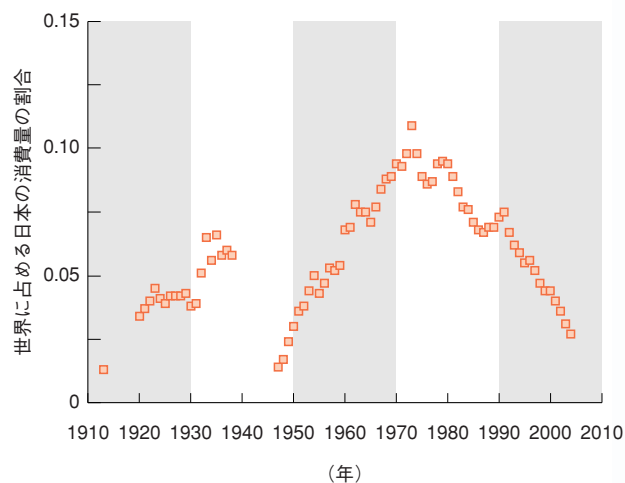


図-4 世界全体に占めるわが国のセメント消費量の割合の推移 (1913、1920～1938、1947～2004年)

(キャラクター&外枠デザイン：宇野洋志城)